

# 「やりたい事やりなよ！」

これは前職を早期退職し、転職の話をした時の妻の言葉だ。家族のために生活費を稼ぐ必要があると焦っていた私はとても驚いた。そして、それよりも驚いたことは、自分の「やりたい事」がわからなかったことだ。

安心できる家があり、食べるものにも困らず、（特に物欲はないが）欲しいものも買える、子供にも恵まれ、幸せな人生だと感じている。

それが今、いい年して「やりたい事」を考える時間を与えられている！

## 子供の頃の「夢」

地元のサッカークラブに入り、地域にあった読売クラブの選手から教わることもあった。テレビやスタジアムで試合を見て憧れた「サッカー選手」になりたかった。サッカーが好きで、気がつけばいつもサッカーをしていた。そしてジャーナリストだった父ジャンルカの勧めもあり高校卒業後にはアルゼンチンへ留学した。異国での修行、交流から多くを学び、世界の広さを感じました。

この頃はプロサッカー選手を目標に精一杯生きていた。しかし時代はバブル崩壊の後。プロテストをいくつも受け、地域リーグでもチャレンジしたが、プロサッカー選手にはなれなかった。そして、何かの知らせのように2回続けて「怪我」をした。

## 「肩脱臼」「膝靭帯損傷」

怪我で身体を動かすことができなくなり、練習も出来なくなると必然と働き出した。「サッカー界へ恩返しをしたい」「サッカーの楽しさを伝える」ことが自分の「志」となり、「海外サッカーやJリーグ、そして2002日韓をはじめ3度のW杯」、さらに「プロ野球」「Bリーグ」など、特にサッカーを中心としたスポーツ中継と映像制作を20年近い年月続けてきた。「スカパー！」や「FOXスポーツ」では、本当に沢山のことを学んだ。 続く…

## 「伝える」と「聴く」

前職では、「言葉」がとても大切にされていました。生中継では、どんな言葉を使うかで伝わり方が大きく変わるからです。

『言霊』と言うくらい「言葉」には力があります。それこそ先輩から伝え方でよく叱られたことを思い出す。

私は『施術 = コミュニケーション』だと考えています。テレビはマス(多方向)へ、一方通行でしたが、ここでは、1人対1人の対話で、双方向です。そのため「聴く」と「感じる」が重要なのだと感じています。

ミオンパシーの施術を学ぶ中で一つ一つの言葉が大切なのだと再認識しました。



サッカーと出会う

1981



アルゼンチンへ留学

1996

スポーツ中継時代スタート

2001



ミオンパシーを知る

2020

トレーニーセラピスト 富樫 理  
調布成城・国立立川・白金台  
料金(税別) 90分 ¥9,000  
120分 ¥11,000



## ミオンパシーサロン ～UROOM～と出会った事には意味がある

「スポーツ選手は怪我や病気が多い。」  
これは、スポーツ映像の仕事をしていて感じたことです。  
限界へ挑戦し、身体を酷使するからですが、その半面で十分なケア体制もあります。  
それでも怪我をします。しかも同じ個所を何度も怪我する選手がいるのです。

それは、子供の頃に負った怪我が原因のことがあります。  
痛みや傷が治っても、気が付かない深層では筋肉に痕が残る。  
それが筋肉ロックとなり、どんどんと蓄積されていく。  
気が付けば身体中のバランスが崩れ、全身にロックが溜まる。  
どうすればそうならないのでしょうか。

## 自分の体の仕組みを知り、ケアを続けること

身体は、自分の食べた食事で作られる。  
大人でも子供でも同じで、栄養で決まってきます。  
自然なことなのに、栄養を理解していない人が大勢いる。  
教育や環境によってできていない人にも知ってもらいたいことがある。

身体材料としてタンパク質が重要でも、摂れていない人たちがいること。  
糖質過多は、歴史から考えると身体に良いことはないこと。  
人にとって最良のエネルギー源は脂質だということ。などなど…

アスリートも老人も子供たちも同じ、これらが大切な事です。

## 「子供たちが体のケアの意味を知る」

これが重要で彼らが大人へと成長し、それを周囲の人たちへ伝え、  
さらに世界中の人へ伝わり、大勢の人々が健康で幸せになり平穏な人生を送る。  
これが今の私の目指す世界です。

トレーニーセラピスト 富樫 理

調布成城・国立立川・白金台

料金（税別） 90分 ¥9,000

120分 ¥11,000

## 「毎年主催するジャンルカカップ」

私の父は、ジャンルカ・トト・富樫こと富樫洋一。サッカージャーナリストで2006年2月7日にアフリカネーションズカップ取材中に亡くなりました。

毎年、命日に近い2月の第一週週末に1デーマッチを、父の友人や関係者を中心に12チーム集めた大会で、すでに14回の開催をしました。

父の友人たちは、50～70代。私は40代、子供は小学生。様々な年齢層が入り混じってチームを作り、交流する大会です。  
ジャンルカの考えていた理念は、シンプルに「サッカーを愛し、楽しみ、うまくなりたい」です。

諸先輩方々や子供たちから教わる事、垣根を超えた交流が大切なことなど、開催を続けることで多くのことを学んでいます。

施術もよい出会いや交流ができる事を期待しています

